

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270200902		
法人名	社会福祉法人 由起会		
事業所名	社会福祉法人 由起会(おもやい)		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市上柚木町2515番地 (電 話) 0956-46-2010		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成19年12月17日	評価確定日	平成20年4月28日

## 【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成11年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算	6.1人

### (2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造平屋造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,700 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800円

### (4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	品川医院、豊村歯科
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山々に囲まれ鳥の囀り声が聞こえる、四季折々の情景が美しい環境の中に法人施設が併設され、職員同士が仲良く“おもやって”共有し支え合っているホームで、職員・入居者ともに明るい笑顔が見られる。運営者である理事長は高齢者に出来る限りのんびり過ごして頂きたい、今迄の生活が続けられる、自分の持てる力という思いから、特別養護老人施設、老人保健施設、通所リハビリテーション、ケアハウスを設立し、地域の方のニーズに対応できる総合的な老人福祉サービスを提供する目的で平成11年4月グループホームを開設している。一つの地域と呼べる程の広大な敷地内の法人施設、各事業所であるが町内の地域の方々と交流していきたいとの考えから、今後、運営推進会議や同業者との交流を更に深めていくことが期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>毎月のケース会議で理念を全員で唱和し、常に眼にし意識できるよう居間と玄関に掲示しており、併設施設が発行する情報誌にも掲載する予定である。温湿度計を設置し適切な環境を保てるように努めている。個人のケア記録と介護計画が連動するよう、出来るだけ易しい入居者自身の言葉で表記する等、取り組みを続けている。個人毎の服薬ファイルを作成したり、定期的な勉強会を行っている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の目的や評価結果の活用について職員に説明し、自己評価は職員に記入迄はして貰わなかったが計画作成者と一部の職員が話し合い、日頃の職員の意見を基にまとめ皆で回覧している。前回評価結果を基に理事長・管理者・計画作成担当者と一部職員で検討し、改善計画書を作成し全職員で実践している。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の方とは顔見知りで会議の雰囲気は和やかで居間の傍らで会議が開催され、ホームの活動状況や予定行事等の報告を行い、出席者からホームや職員の向上を願う声等、積極的にご意見や質問を頂く機会も多い。併設施設の各職種との連携により問題解決できる事も多く、市等に相談したり直接窓口に向ったりする事はないが、立地的な要素もあり日常的な地域付き合いが困難な部分について市に相談し助言を頂く等、必要に応じ施設事務を通して相談している。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>個々に合わせた内容を面会時や毎月の行事予定、生活状況等について手紙を書き請求書と一緒に送りし、安心して頂けるよう取り組みを始めている。ご意見箱の設置や「何かありますか、何かあったら言ってください」と、繰り返しお伝えし、家族の方の思いが食い違っているのではと思える事が、広くご意見を頂けるように努め、ご意見は専用ノートに記録し職員間で情報共有し、推進会議に諮ったり助言を頂けるようにしている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>広大な敷地内に介護保険の施設や事業所が建てられ、法人で一つの地域を成している感があり施設の夏祭りや運動会に参加し、町内行事への参加の機会は少なかったが、町内文化祭見学に行ったり、地域の上り餅作りに参加する予定である。知人・友人やデイサービスに来られた方がホームに遊びに来られたり、年に3~4回行われる草刈や清掃に職員が参加している。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理事長は高齢者のお役に立ちたいという思いから、在宅介護に尽力し、高齢者のニーズに応じた総合的なサービス提供を支えるシステム、専門的な認知症ケアの必要性を感じ、H.11.4.ホーム開設時に理事長・施設長・職員が話し合っ、今迄していた生活の援助を重視し、趣味や生活歴を活かし“残された力で暮らしの喜びと自信を”持って、その人らしく地域の方と交流しながら、生活して頂けるよう支援していきたいという思いを込め理念を作り上げた。	○	住み慣れた場所で顔馴染みの人々と、今迄と同じように自分らしく暮らしていくという思いは、理念の中に込められているが、地域とのつながりや、もう少し解り易い言葉を付け加える等、地域の中のホームとしての理念を、地域の方や職員と話し合う事を検討しており、今後の取り組みに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	食堂と玄関に理念を掲示する事で、常に眼にし意識付けをすると共にケース会議の際に唱和している。買い物や散歩等、地域との関わりが十分でない事や、生活リズムに合わせた声かけ・誘導等、本人の気持ちと生活の流れがマッチしていない時等、理念に照らし合わせて問題提起し意識づけている。入居者の人格や思いを尊重し、職員の都合を押し付けたりしないよう声かけや態度に配慮している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	広大な敷地内に介護保険の施設や事業所が建てられ、法人で一つの地域を成している感があり施設の夏祭りや運動会に参加し、町内行事への参加の機会は少なかったが、町内文化祭見学に行ったり、地域のしめ縄作りに参加する予定である。知人・友人やデイサービスにいられた方がホームに遊びに来られたり、年に3~4回行われる草刈や清掃に職員が参加している。	○	中学生の職場体験の受け入れを市職員に相談したり、併設施設に慰問に来られた時にホームに寄って頂く等、地域の方に気軽にホームを訪れて頂けるような場面作りを意識していきたいと考えている。散歩をされた際に空き缶やゴミ拾い等、入居者の方が地域の一員としての役割活動が出来るような取り組みに期待していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の目的や評価結果の活用について職員に説明し、自己評価は職員に記入込はして貰わなかったが計画作成者と一部の職員が話し合い、日頃の職員の意見を基にまとめ皆で回覧している。前回評価結果を基に理事長・管理者・計画作成担当者と一部職員で検討し、改善計画書を作成し全職員で実践している。	○	自己評価に取り組む際、職員自ら行う事により評価項目の理解が深まると共に、日頃のケアの振り返りや実践に対する自信、新たな気付きや質の向上につながっていくと考えられ、今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員家族が町内会長、管理者自身も町内の委員の関係から、地域の方とは顔見知りで会議の雰囲気は和やかである。ホーム居間のレクレーションをしている傍らで会議が開催され、入居者は初めの2回の参加だけで、他入居者と過ごされる事を希望される後の参加はない。活動状況や予定されている行事等の報告を行い、出席者からはホームや職員にもっと向上して欲しいという願いから、積極的にご意見や質問を頂く機会も多い。	○	入居者に無理のない参加時間・参加者、開催場所等をその都度検討し、地域の方も含め多くの方の参加により“地域の生の声”が頂きたい事や、会議録を家族に閲覧して頂く事も視野に入れて考えていきたいとの思いがあり、今後の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設施設から必要な事務手続きや、介護保険の申請等を行っており、直接ホームが市窓口に向う事はない。併設施設の各職種との連携により市等に相談する事はないが、立地的な要素もあり日常的な地域付き合いが困難な部分について、市に相談し助言を頂く等、必要に応じ施設事務を通して相談している。	○	併設施設が発行する“新聞”にグループホームのお便り欄が出来るのに合わせ、入居者の生活や活動状況等を掲載し、市窓口へ持って行く等ホームの情報提供を考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態等、家族によって気になっている事に違いがある事を把握し、個々に合わせて面会時にお伝えし、定期的におこずかい帳の確認・押印して頂き、職員の異動時は文書でお知らせしたり、面会時に自己紹介を行っている。毎月の行事予定や生活状況等について、計画作成担当者が手紙を書き請求書と一緒に送りし、安心して頂けるよう取り組みを始めた。	○	暮らしぶり等の報告を近隣在住の家族だけでなく、遠方の家族の方にもお伝えする事により、安心感や家族の絆を保ち続ける事にも繋がっていきと考えられ、今後の取り組みに期待していきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や「何かありますか、何かあったら言ってください」と、繰り返しお伝えしているが特にご意見等はなく、家族の方との思いが食い違っているのではと思える事がある。市等の相談窓口について繰り返しの説明は行っていないが、広くご意見を頂けるように努め、ご意見は専用ノートに記録し職員間で情報共有し、推進会議に諮ったり助言を頂けるようにしている。	○	ご意見・不満・苦情等を率直に言って頂けるよう、相談窓口の説明を繰り返しお伝えしたいと考えており、家族の方がご意見等言い易い場の雰囲気作りをする等、今後の取り組みに期待していきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	希望や適性に応じて異動は行われるが、基本的に定期的な異動はなく法人全体や併設施設との慰安旅行・歓迎会・食事会等、ストレス解消の場を設けている。職員からの意見や問題等は、理事長や管理者が個別相談に応じ健康管理にも配慮している。職員交代によるダメージを最小限にする為、併設施設で介護技術実習を受け、計画作成担当者が情報提供や指導を十分行い、以前と変わらないケアが提供できるようにしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業者協議会主催の勉強会や認知症介護実践者研修にケアマネジャーが出席したり、法人内他事業所と合同で感染症等、季節時に応じて必要な研修を定期的に重点的に行い、毎月のケアカンファレンスで時に研修内容の再確認や、外部研修の伝達を行ったり資料を回覧している。ケア場面でのマナーや接遇、介護技術等、管理者やケアマネジャーが指導・助言を行っている。大まかな計画に沿って個別に伝えている時もあるが、段階に応じた個別の計画の作成には至っていない。	○	職員と話し合いながら個々の経験や習熟度に応じ、育成計画を作成する事で明確な目標設定が出来、自己研鑽につながっていくと考えられる。今後の取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が佐世保市グループホーム連絡協議会の役員で、役員会の出席・研修会の計画立案から関わっている。職員が参加する機会はないが、管理者は懇親会の参加や情報交換、他ホームの訪問をしたり見学に来て頂き交流を深めている。	○	近隣のグループホームと連絡を取り合いながら、相互訪問・見学や協議会の懇親会等に職員が参加できる機会を設けていきたいと考えており、同業者との連携・交流を強化される事に期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族やケアマネジャーと何度か見学に在所し入居に至る事が多く、入居前に自宅等の訪問をする機会はない。徐々に馴染みながら生活できるよう、思いをお聞きしながら話を合わせ、その場で納得して頂いたり、希望される時に家族へ電話し声を聞いて落ち着かれたり、夫の写真やぬいぐるみ、手作りの手芸用品等、馴染みの物を持って来て頂き表情が和らぎ安心して生活して頂いている。以前親が入居されていた事もあり、職員と共通の話題や馴染みの関係が出来上がっていたり、入居後に混乱する事も特には見られていない。	○	入居前の生活環境を知る事で、入居者の思いや行動の背景にあるものを感じ取る事にもつながると考えられる。安心した生活が出来るよう馴染みの関係作りの為の自宅訪問の機会等、職員と話し合いながら検討される事に期待していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話や生活歴をお聞きし、裁縫や料理方法を教えて頂いたり、園芸の得意な方にして頂いたり椅子に座って見て頂く等、家庭の生活の延長と考え本人がするように仕向けている。ケアの時に「ありがとうございます」と言われ職員も感謝の言葉をお伝えしたり、昔話をお聞きしながら励まされている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者と個別に向き合える時間を毎日作るように心がけ、暮らし方について等の思いを把握するように努め、意向の把握が難しい方は行動・表情から思いを汲み取ったり、生活歴・習慣や趣味を家族にお聞きしたり、職員間で話し合い情報共有している。常に声かけをするのではなく敢えて声かけせずに、チャンスをつ捉えて話しかけ思いを把握している方もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の会話やケアの中で思いを把握するように努め、全職員で話し合い『その人らしく暮らし続ける』為の課題は記載されているが、目標が介護者主体になっている方がいたり、法人敷地内での生活に重点が置かれ『地域で暮らす』視点は、殆どの方に盛り込まれていない。家族の方に計画の説明・同意は頂いているが、ご意見・気付きを頂く事がなく言い難い部分があるのではと考えている。行動障害を表す言葉があったり、現在行われているケアの全てが、計画の中に盛り込まれている状況ではない。	○	『入居者自身の計画』という視点で、解りやすい言葉や馴染みのある言葉で表現したり、入居者の思いや家族の思いを計画に盛り込む事で、個別・具体的な目標が設定できる。ケアの方法や留意点を統一する為にも、個別の介護手順書を作成する等の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月ケース会議を行い個別に3ヶ月毎の介護計画の見直しを行っている。状態の変化等がある時は、その都度検討を行うが計画の訂正迄には至っていない。特に変化がない場合は、ほぼ設定した時期にしか行わず、月1回程度の検討は行われていない。	○	新たな要望や変化が見られない場合も毎月、全入居者の計画の見直しについて検討を行うと共に、変化があった時に臨機応変に見直し、現状に即した計画立案が出来るよう期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設の看護師に24時間、何時でも相談や電話したり見に来て貰ったり、必要に応じて医師に連絡し対応する体制が整えられている。外泊時の日程調整や準備を行ったり、定期的に外食したり衣料品や100円ショップへの買物、以前入居されていた方が近くに入院され、お見舞いに伺ったり安心して生活できるように支援している。	○	入居の有無に関わらず、地域の方の緊急避難的な支援が必要な時に、その都度話し合いながら柔軟に対応していけるよう、法人・職員と話し合っていきたいという思いはあり、今後の取り組みに期待していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関をお聞きし同意と納得の上、協力医療機関で受療して頂き個別のかかりつけ医以外は、職員が通院介助を行っており双方の医師に相談に乗って頂き、何時でも相談できる体制は整っている。受診結果は変化がある時は電話でお伝えしているが、それ以外は面会時や定期的な手紙に書いて報告している。以前からのかかりつけ医に家族だけで受診された時も、結果をお聞きし十分把握は出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の身体的状況が車椅子利用位迄で、心理的状況がほぼ同程度で共同生活できる事を基本にし、重度化した場合は法人内施設へ移って頂く事や、退所しても職員が顔見せ出来る事をお伝えし、全入居者・家族の意向確認は出来ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	家族・本人のご希望により「○ちゃん」とお呼びしたり、長くいらっしゃる入居者の方に職員が馴染んでいる呼び方をする事もあるが、常に意識して目上の方に対する尊敬の念を持って接している。排泄の間隔が長い時に排泄誘導を行うがざりげなく声かけし自尊心・羞恥心に配慮している。個人情報保護法について全職員が理解し、メモ紙を捨てる際も手で千切って処理する等、情報の漏えい防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを整える為に、日課についての声かけは行いが希望や思いをお聞きし、無理強いせず入居者のペースに合わせて、したいように過ごして頂いている。希望を表わされない方は生活歴や日々の会話やケアの中から、出来る事・したい事を見つけ出しゆっく時間をかけて行えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性入居者はおしゃれな割烹着やエプロンを着け献立を考えたり、食材の買出し、調理の下ごしらえ、味見や盛り付け、食器の配膳や後片付け等、無理の無い範囲で参加して頂いている。食事制限でご飯を少なくする時も器等で、見た目が変わらないように工夫している。テレビを消して静かなBGMを流し、楽しい雰囲気を作るよう職員も一緒に食卓につき皿を並べ変えたり、すすめたりしながら食べやすいように声をかけたり、押し寿司を作ったり外食を取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯・回数がある程度決め希望時はシャワー等で対応し、体調に無理のない範囲で湯に浸かる時間、湯温、順番、同性介助等好みに合わせ、洗身や洗髪等必要な部分は支援している。お誘いする順番によっては気の合う方同士で入られたり、入浴を嫌がられる時には話題を変えたり“着替えだけでも”や“おふろ”という言葉を使わずに誘っている。入浴した事を何度も聞かれる方に、入浴が済んだ事を紙に書いて貼り安心して頂いている。	○	24時間循環式の大浴場が併設施設にあり、ホームで利用する事について法人と話し合いながら、入浴を更に楽しんで頂きたいと考えており、取り組みに期待していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸や裁縫が好きな方が花瓶敷きやクマのぬいぐるみを作ったり、食器洗い用の編み物をされたり、料理好きな方にメニューの相談や下ごしらえ、味つけを一緒に行っている。居室で俳句の本を読んだり一句詠んで頂いたり、草取りや花の水やりを職員と一緒にしたり、自分の部屋を自分で掃除したり、物品を提示しながら楽しみ事が見つけられるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2～3年前に比べてADL状況に特に変化はないが、杖歩行や腰が悪い方がおられ以前に行っていた場所に、皆で行けなくなり個別の対応をしているが、外出の機会は減少してきている。入居者のご希望をお聞きしながら、出来るだけ庭に出たり園芸、散歩を行い、気分転換やストレス発散、五感刺激の機会としている。	○	入居者・家族の思いを尊重しながら、外出の場所・頻度・方法、地域のボランティア等も考慮し、日常的な外出の機会を増やしていけるよう、職員と話し合い検討される事に期待していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	室内窓は17:00、玄関は19:30～7:00迄防犯上の施錠を行い、17:30以降の面会は電話をして来て頂いている。職員の立つ場所や声を掛け合ったり行動制限に配慮しながら、玄関に鈴をつけ安全確認を行っている。ホーム前が緩やかな坂で近くに崖がある等、環境的リスクは高いが、入居者の落ち着かなくなれる時間や行動を把握し、細やかに接し「何処へ行かれますか」とお尋ねしたり、一人で外出される時は職員が付き添ったり、自由に外出できるよう支援している。	○	自由に外出できる思いを尊重しつつも、安全面に配慮し更に強化して行きながら危険のない範囲で、時によっては見守りながら鍵をかけないケアの継続に期待していきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回一部職員と地域の方、消防署・消防団の方に来て頂き、夜間の災害発生を想定し法人施設全体で避難訓練を実施している。併設施設に近隣住民用非常時サイレンが設置され、非常通報先を町内会長宅とし町内連絡表で、全住民に連絡する体制が整えられている。災害に備えた備品は特に準備はされていない。	○	ホーム単独での避難訓練を計画しており、地域の方の協力体制や担って頂く役割等も検討されると共に、災害に備えた備品についても物品・量等、法人とも協議しながら準備される事に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みに合わせて嫌いな魚の時は魚の種類を変え、食事摂取量を把握・記録し、水分については必要量が摂取できているかほだいたい確認している。カロリーの過不足や偏りを防ぐ為に提供したメニューを写真に撮り、併設施設の栄養士にチェックして貰い助言を受けたり、定期的な体重測定血液検査の結果により医師からの助言を得て体調に配慮している。	○	個別の栄養管理を行っていきたいと考えており、検査結果等の情報を栄養士に提供する事への同意を、家族に確認しながら入居者個々の、適切な栄養所要量の確保が出来るような取り組みに期待していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓の横にソファが置かれ気の合った入居者同士が歓談し、玄関は入居者の作品や季節の花が飾られ心和む、暖かい雰囲気になっている。庇が深く直射日光が射さないよう造られ、空間を大事にし冬場も空気が淀まないよう換気を行い、新鮮な空気の中で心地よく過ごせるよう配慮している。不快感のない音量を意識したBGMを流したり、消臭剤を使用したり薄着を心掛けると共に、換気をし呼吸器の感染症予防に努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室・洋室を状況によって選択できる様になっており、以前から使っていた家具や鏡台、仏壇、写真等の馴染みの物を持って来て頂いている。入居者のベッドに合わせて、職員手作りのベッドカバーが掛けてあり色合いや模様等、その人らしさを表す居室作りに努めている。家族に馴染んでいる小物等も自由に持って来て頂けるよう声を掛けている。		